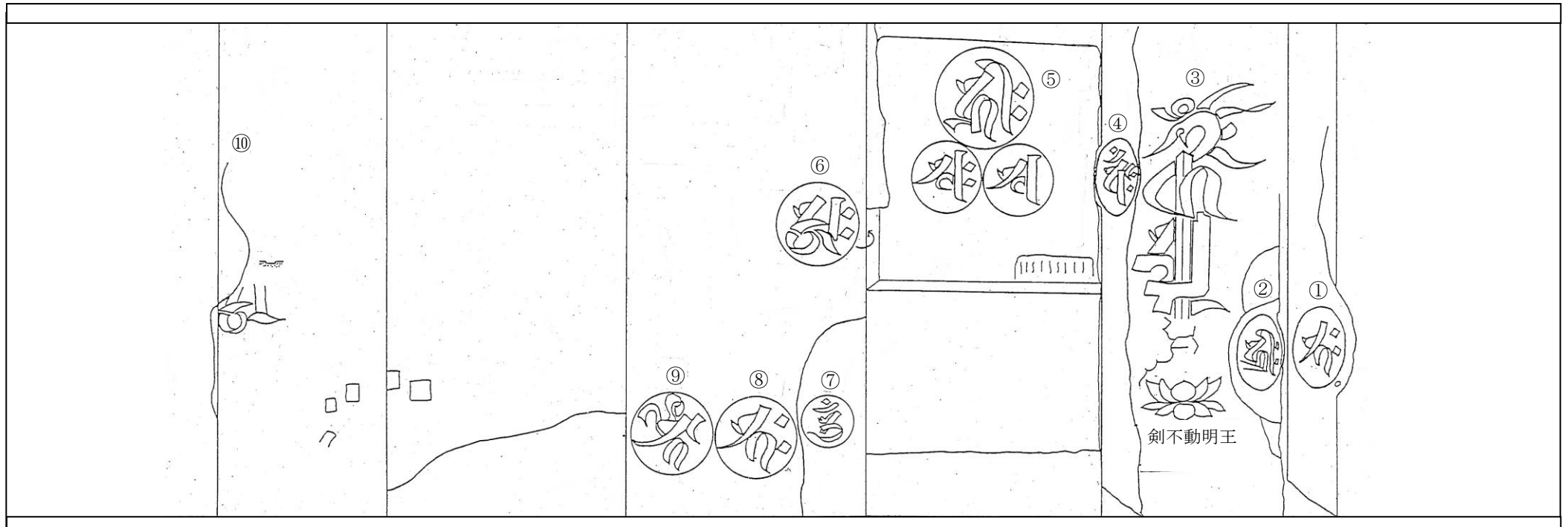


青木磨崖梵字群



第1・2号梵字

岩壁の中央部で、梵字群の最北端にあり、右に^⑩ (バク・釈迦) ^⑨ (キリク・阿弥陀) の2尊である。第2号字は風化して僅かに痕跡を止めている。

第3号梵字

上部に^⑧ (カン・不動) 下部に^⑦ (ア・胎蔵界大日) をおき、これを縦に貫く劔で結んで一体とし、さらに装飾性を加味して瑞鳥を象徴し三段の蓮華座の上に戴き劔不動尊の仏体を構成する。全長1.90メートル、幅60センチ、梵字群中最大の規模をもち、その中心をなすものとされる。

第4号梵字

^⑥ (アーク・大日・五点具足の阿字) を丸をもって囲む。劔不動の左に接し、第九号とともに最も小さい。

第5号梵字

^⑤ (キリク、阿弥陀) の大梵字を中央上段に、下段右に^④ (サ・観音) 左に^③ (サク・勢至) を配し、いずれも丸で囲み、阿弥陀三尊を構成する。群中壁面の最上位におく。第三号劔不動に次ぐ大きさを示すものである。

第6号梵字

^④ (アク・勢至) を丸で囲み、阿弥陀三尊の左奥にあり地盤の変動によって生じた岩陰に完全に残る。

第7号梵字

^③ (ウン・阿閼) を丸で囲み、第10・11号とともに横に等間隔に右端に並んでおり、壁面の最下部に位置し、群中最小の梵字である。

第8・9号梵字

右に^② (バク・釈迦) 左に^① (バイ・薬師) を配して二尊化を構成する。

第10号梵字

岩壁の南端に位置し、上半部を失い、下半部が残る^① (ア・胎蔵界大日) で梵字群中平彫りの形状をとって唯一のものである。